

“V＋着” と＜V＋テイル＞の対照研究(十二)

時 衛国

日本語教育講座

A Contrastive Study of “Verb＋Zhe” and “Verb＋Teiru”(XII)

Weiguo SHI

Department of Japanese Languages, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

要約

中国語の「着」と日本語の＜テイル＞は、状態や範囲を表わす修飾語と共起して、動的状态と静的状態をいずれも表現することができるという点では大体共通しているが、量性や頻度を表わす修飾語などと共起することができないという点では異なっている。

「着」は動作動詞を修飾する時には、状態や範囲の修飾語とは共起することができるが、時間や量性の修飾語とは共起することができない。二重性を持つ動詞を修飾する時には、状態や範囲の修飾語と共起し、その動的状态と静的状態のいずれも表現することができるが、瞬間動詞とは共起できないため、修飾の範囲や対象などは制限されていると考えられる。

＜テイル＞は状態や時間、量性などの修飾語と共起して、動作動詞や二面性を持つ動詞を修飾することができる。また頻度や量性、範囲を表わす修飾語と共起して瞬間動詞を修飾することもできる。さらには、その修飾語によって瞬間動詞による動的状态をも修飾することができる。その修飾範囲は極めて広く、強い修飾の機能を有していると言える。

キーワード：修飾語 共起 動的状态 静的状態 描写性

1. はじめに

私はこれまで様々な観点から、“V＋着”¹⁾と＜V＋テイル＞の意味と用法について考察や論証をしてきた。本研究は“修飾語＋V＋着”という構造と＜修飾語＋V＋テイル＞という構造²⁾について、これまでの先行研究を参考にしながら、それぞれの意味と用法及び文法的特徴などを中心に考察しようとするものである。

“修飾語＋V＋着”という構造と＜修飾語＋V＋テイル＞という構造は、それぞれ以下のように用いられている。

- (1) 母亲攥着菜刀，目光炯炯地看着父亲，说：～。（母は包丁を手を持ったまま、目を輝かせて父を眺めていた。そして「～」と言っていた）（莫言《四十一炮》P22 作家出版社 2012）
- (2) 現実に日本の離婚率はここ数年着实に上昇してきている。（渡辺淳一『ふたりの余白』P124 集英社 1987）

この中で、(1)は、“目光炯炯地(目を輝かせて)”という修飾語＋“看(見る)”という動詞＋“着(テイル)”というアスペクト助詞から構成された修飾構造である。一方、(2)は、「着实に」という修飾語＋「上昇する」という動詞＋「てくる」という補助動詞＋＜テイル＞という補助動詞から構成された修飾構造である。この二つの修飾構造は、状態修飾語＋V＋着/テイルという構造を取っているという点では全く共通している。

ここでは、この二つの修飾構造がそれぞれどのように用いられ、どのような文法的特徴を有しているのか、文法的にはどのような制限を受け、どのような働きを保有しているのか。そして修飾語が“V＋着”と＜V＋テイル＞に対し、どのような影響をもたらすのか、などについて考察し、両言語の共通点と相違点を究明したいと考えている。

2. 先行研究

中国語の修飾語と“V＋着”との関係については、これまでの研究では言及されてきてはいるが、あまり詳細に論考されてきていない。たとえば、“V＋着”

の前に用いられる副詞として“正”“在”“正在”が取り上げられている例がある。それは呂叔湘主编《现代汉语八百词》(1984)、戴耀晶(1997)、候学超(1998)、陆俭明(1999)、刘一之(2001)などである。石毓智(1992)では“V+着”と“在”“正在”“正”との関係について考察し、有益な提言をしている。讚井唯允(2000)では“在等着/等着/正在等着”について述べられている。上記の研究³⁾では“着”と“正”“在”“正在”との共起状況については考察されているが、“着”と他の修飾語との関係についてはあまり考察されていない。

日本語では、仁田義雄(1982)、工藤真由美(1982)、矢澤真人(1985)などが修飾語と<テイル>との関係について考察している⁴⁾。特に矢澤真人(1985)の考察は参考になる点が多々ある⁵⁾。

従来の研究では、<テイル>については、(i)動作・作用の継続、(ii)動作・作用の結果の状態、(iii)単なる状態、(iv)経験、(v)くりかえしという五つの意味のタイプがあるとされている(吉川武時(1976))。実は、(i)は本研究における動的状態の持続、(ii)(iii)は静的状態の持続に相当する用法であるが、<該当動詞+テイル>という構造を取っているという点では共通している。(iv)⁶⁾(v)は(i)(ii)(iii)のいずれとも異なっているが、<修飾語+該当動詞+テイル>という点では共通している。(i)(ii)(iii)はその独立した用法として、<該当動詞+テイル>という構造を取ることによって、その意味表現が実現されるのに対し、(iv)(v)は<修飾語+該当動詞+テイル>という構造を取ることによって、その意味表現が実現されることになる。即ち、後者は、<該当動詞+テイル>をとる場合は、その意味表現が実現できないため、<修飾語+該当動詞+テイル>という構造を取るようになる。<修飾語+該当動詞+テイル>において修飾語が用いられない場合は、(iv)(v)の表現が成立しないということである。それで、(iv)(v)は、<テイル>と修飾語との共起による用法と言える。意味表現と文法的構造の面では、(i)(ii)(iii)と(iv)(v)は完全に異なっている。本研究の考察対象は(iv)(v)であるが、意味表現上は(i)(ii)(iii)にも言及することとする。

3. 分析

本研究では動詞について、「動作動詞」⁷⁾「二面性を持つ動詞」⁸⁾「瞬間動詞」⁹⁾の三種類に大別して、“V+着”と<V+テイル>がそれぞれどのようにその三種類の動詞と共起するのかについて考察していくこととする。

3.1. 動作動詞の場合

“V+着”は状態を表わす修飾語と共起することは

できるが、時間を表わす修飾語や量性を表わす修飾語とは共起することができない。それに対し、<V+テイル>は、状態を表わす修飾語や時間を表わす修飾語と量性を表わす修飾語のいずれとも共起することができる。たとえば、

- (3) 静静地看着电视。(テレビを静かに見ている)
- (4) テレビを静かに見ている。
- (5) *每天看着电视。(「テレビを毎日見ている」の意)
- (6) テレビを毎日見ている。
- (7) *稍微看着一会儿电视。(「テレビをしばらくの間見ている」の意)
- (8) テレビをちょっと見ている。
- (9) 都看着电视。(みんなテレビを見ている)
- (10) みんなテレビを見ている。

“V+着”は(3)で「静静地(静かに)」という修飾語と共起し、静かにテレビを見ているという動的状態を表現している。「静静地(静かに)」という修飾語は、“看着电视(テレビを見ている)”という持続している動的状態を修飾し、その静かな様子を表わしている。状態を表わす修飾語には、“轻轻地(軽く)”“慢慢地(ゆっくり)”“呆呆地(茫然と)”という形容詞のAA式の重ね型や“老老实实地(大人しく)”“慌慌张张地(慌ただしく)”“高高兴兴(嬉しそうに)”“悠悠哉哉地(悠々と)”という形容詞のAABB式の重ね型や“站着(立ったまま)”“坐着(座ったまま)”“躺着(横になったま)”“蹲着(蹲ったま)”という「動詞+テイル」から構成された修飾構造などがある。これらはいずれも、修飾語として機能しているので、“V+着”は状態を表わす修飾語による修飾を受け入れており、それとの共起によって、持続している動的状態のそれぞれの様子を表わしている。

ところが、“V+着”は、(5)と(7)における“每天”という時間を表わす名詞と“稍微”という量性を表わす副詞とは共起することができない。“看着电视(テレビを見ている)”という持続している動的状態は、時間を表わす語句と共起できないわけではない。たとえば、“现在看着电视(今テレビを見ている)”“一直看着电视(ずっとテレビを見ている)”“依然看着电视(相変わらずテレビを見ている)”“始终看着电视(終始テレビを見ている)”などのような表現は成立するので、持続の過程に関する時間の語句については共起することができる。“每天(毎日)”“时常(しょっちゅう)”“往往(往々にして)”“永远(永遠に)”“终于(ついに)”“刚刚(ちょうど)”“将要(間もなく)”“一向(今までずっと)”“向来(いままでずっと)”“总是(いつも)”“赶紧(大急ぎで)”“屡次(何度も)”“再三(再三)”な

どは、時間の概念を表わす語句として、持続の過程に関わる時間を表わすわけではないので、持続している動的状態とは共起することができない。

一方、量性を表わす語句には“稍微(少し)”“略微(少々)”“多少(多少)”という副詞の他に、また、“一点儿(少し)”“一些(些か)”“一会儿(しばらくの間)”“一阵儿(しばらくの間)”“一下(ちょっと)”“一段时间(しばらくの間)”などの数量詞もある。これらの語句は“看”という動的状態を修飾できないというわけではない。たとえば、“稍微看一会儿电视(テレビをちょっと見る)”“稍微看了一会儿电视(テレビをちょっと見た)”“看一下电视(テレビをちょっと見る)”“看了一下电视(テレビをちょっと見た)”“看一段时间电视(テレビをしばらくの間見る)”“看了一段时间电视(テレビをしばらくの間見た)”などのように、“看”とは共起することができるのである。ところが、持続している状態を表わす“V+着”という構造とは共起することができないのである。つまり、“V+着”は持続している状態を表現し、その状態が現在続けられており、結果を表わす段階にはなっていないということである。そのため、量性を表わす語句は、その持続している状態を修飾することができない。言い換えると、“稍微看一会儿电视(テレビをちょっと見る)”のような場合は、これからその動的状態が持続する時間量表現することになるが、“看了一下电视(テレビを少し見た)”のような場合は、すでにその動的状態が行なわれた時間量を表わすことになる。それに対し、“V+着”の場合は、目下その動的状態が持続していて、まだ終了していないことを示しているので、時間量の修飾を受け入れられないのである。そのために、“V+着”という動的状態は量性を表わす語句と共起することができない。

“V+着”はまた、範囲を表わす修飾語(副詞)とも共起することができる。(9)では、“都(皆)”という修飾語は、ある範囲においては例外なく、全員テレビを見ているということを表わしている。範囲を表わす修飾語には、“都(皆)”の他に、また、“只是(ただ～だ)”“仅仅(僅かに～だ)”“统统(すべて)”“总共(合わせて)”などがある。これらの修飾語は、(9)のようにそれだけで“V+着”を修飾することができる。また、“都静静地看着电视(みんなテレビを静かに見ている)”“只是静静地看着电视(ただ静かにテレビを見ただけだった)”などのように、状態修飾語+“V+着”という構造を修飾することもできる。言い換えると、状態修飾語+“V+着”という構造による動的状態の持続も表現することができるのである。範囲を表わす修飾語は、ある動的状態の行なわれている範囲を表わしているため、ある範囲における動的状態が持続していることを表現することができるからである。

ただし、範囲を表わす修飾語は、“*都每天看着电视(「皆毎日テレビを見ている」の意)”“*只是稍微看了一会儿电视(「ただテレビをちょっと見ただけだった」の意)”のように、時間や少量などを表わす語句とは共起することができない。

日本語では、＜V+テイル＞は、様々な修飾語による修飾を受け入れることができるという点では、中国語の“V+着”と大きく異なっている。(4)では＜V+テイル＞は、「静かに」という形容動詞の修飾語と共起し、「見る」という動的状態が静かに持続していることを表わしている。「静かに」のような形容詞・形容動詞などのような語句は、いずれも動的状態に関わり、その様子の特徴などを表わすことができる。この点では、“V+着”と共通していると言える。

＜V+テイル＞は、(6)では「毎日」という名詞と共起し、毎日欠かさずにテレビを見ているということを表わしている。動作主がある時刻においてテレビを見ているという表現の他、一定の時間内においてはテレビを見ているという動的状態が繰り返し持続することを表わすことができる。つまり、見ているというある時刻の持続を表わすことができる他、毎日毎日という時間的枠内においてその状態が持続していることも表わすことができるということである。

＜V+テイル＞は、時間を表わす語句による制限を受け入れることができる。一定の時間的枠内で、ある動的状態が中長期的に持続するであろうことを表現することができる。それで、＜V+テイル＞は柔軟性を備えた構造になっている。この点では、“V+着”とは異なっている。“V+着”は時間を表わす語句に対しては選択性を有しており、すべての時間的語句と共起するとは限らない。それに対し、＜V+テイル＞は、時間を表わす語句に対しては選択性を有しておらず、様々な時間的語句との共起ができると考えられる。日本語では一定の期間内における動的状態の持続を繰り返し表現することができるのが文法的特徴の一つだと言える。

一方、(8)では、＜V+テイル＞は、「ちょっと」という動的状態が持続している時間量・量性などを表わす修飾語と共起し、テレビを見ているという動的状態が時間的には短いことを表わしている。「ちょっとテレビを見ている」という表現は、テレビを見ているという動的状態が短期間に持続し、その量が少ないことを表わしている。「テレビをちょっと見る」「テレビをちょっと見た」「テレビをちょっと見ている」「テレビをちょっと見ていた」などのように、量的語句はどの構造においても短時間量を表わす修飾語として用いられ、文法的には制限されるようなことは考えられない。＜V+テイル＞は、ある動的状態が持続していることを表わしていると共に、その状態が持続している

時間の制限をも受け入れることができる。この点では“V+着”とは全く異なった点と言える。

範囲を表わす修飾語は、<V+テイル>と共に起すことができる。(10)では全員がテレビを見ているということを表わしている。範囲を表わす修飾語は、さらに「皆テレビを静かに見ている」「皆毎日テレビを見ている」「皆テレビをちょっと見ている」のように、状態修飾語+<V+テイル>という構造や時間修飾語+<V+テイル>という構造、量性修飾語+<V+テイル>という構造をも修飾することができる。この点では、中国語とは大きく異なっている。範囲を表わす修飾語が多様な修飾構造を修飾できるということについては、日本語の大きな文法的特徴と言えよう。

<V+テイル>は、状態や時間、量性、範囲を表わす修飾語と共に起すことによって、持続している動的状态の様々な様子、時間に伴う特徴や量的な概念、範囲などを表わすことができる。言い換えれば、動的状态の持続していることを多角的に表現することができるということである。

3.2. 二面性を持つ動詞の場合

二面性を持つ動詞は、動的状态でも静的状態でも表わすことができるため、修飾語によってその動的状态や静的状態のいずれも表現することができる。“V+着”と<V+テイル>は、様々な修飾語を受け入れることができるという点ではほぼ共通している。

- (11) 他慌慌张张地穿着西服。(彼は慌ただしく洋服を着ている)
 (12) 彼は慌ただしく洋服を着ている。
 (13) 他总是穿着西服。(彼はいつも洋服を着ている)
 (14) 彼はいつも洋服を着ている。

“V+着”は、(11)では、“慌慌张张(慌ただしく)”という形容詞の重ね型と共に起し、洋服を着用しているという動的状态を表わしているが、(13)では、“总是(いつも)”という副詞と共に起し、洋服が身についているという静的状態を表わしている。この種類の動詞は、動的状态でも静的状態でも表わすことができるという文法上の二面性を持っている。ところが、どのような場合は動的状态を、どのような場合は静的状態を表わしているのかというと、二面性を持っているため、はっきり説明できない場合がある。

たとえば、“他穿着西服(彼は洋服を着ている)”という表現の場合は、現在洋服を着用している最中であることも、すでに洋服が身についていることも理解される。二面性を持っているため、表現があいまいではっきりしないからである。ところが、修飾語が用いられる場合は、その意味によって、動的状态か静的状態

かははっきりしてことになる。つまり、修飾語はその動的状态と静的状態を区別する働きを有しているということである。言い換えると、修飾語の意味は、その動的状态と静的状態を明確に表現することができるからである。

“慌慌张张(慌ただしく)”という修飾語は、落ち着かない様子を表わすため、“穿着西服(洋服を着ている)”という動的状态を修飾し、その動的状态を表現することになる。慌ただしくその動作を行なっているため、その動的状态を強調することができる。

一方、“总是(いつも)”は、“どんな場合でも”という意味を表わしているため、相当長い時間枠を表現することができる。たとえば、“他总是穿着西服(彼はいつも洋服を着ている)”という表現の場合、特に現在ではなく、前から今まで、あるいは前からこれから先もという相当長い時間枠を表わし、平常の様子を強調することになる。そのため、現在着用しているという動的状态を表わすだけでなく、相当長い時間の枠内において常に着用しているという静的状態を表わしているものと考えられる。

これらの修飾語は“V+着”という構造に対し、強い影響を及ぼしている。“慌慌张张(慌ただしく)”という不安定な様子を表わす修飾語は、二面性を持つ動詞のその動的状态を喚起し、その動的状态を修飾している。それに対し、“总是(いつも)”という極めて長時間を表わす修飾語は、二面性を持つ動詞のその動的状态ではなく、その静的状態を喚起し、その静的状態を修飾している。言い換えると、“慌慌张张(慌ただしく)”はその静的状態を修飾することができず、その動的状态のみを修飾することになる。一方、“总是(いつも)”についてはその動的状态を修飾することができず、その静的状態を修飾することになる。それで、修飾語の意味によって、二面性を持つ動詞のその動的状态と静的状態は修飾され、それぞれ異なった文法的意味を表わすことになる。

<V+テイル>が二面性を持つ動詞¹⁰⁾を修飾する場合については、修飾語の種類によってその動的状态を修飾するか、それともその静的状態を修飾するかという点からいうと、“V+着”とほぼ同じである。

「慌ただしく」「急いで」「大急ぎ」などの修飾語は、不安定な状態を表わすため、二面性を持つ動詞¹¹⁾を修飾する時には、その動的状态を修飾することになり、その静的状態を修飾することはできない。なぜなら、修飾語それ自体の意味は、二面性を持つ動詞の意味を修飾し、その動的状态の意味を規制しているからである。

「いつも」「常に」「時折」「時々」などの時間を表わす修飾語は、長い時間を表わしたり短い時間を表わしたりすることになり、時間の長短には関わりなく、その静的状態を修飾することになる。というのは、長い時

間であっても短い時間であっても、その静的状態の様子を表わすだけであり、時間の長短を表わすことができないからである。

「彼は慌ただしく洋服を着ている」という表現の場合は、落ち着かない様を表わしているので、「洋服を着ている」という動作のみを浮かび上がらせている。また「ゆっくり洋服を着ている」「静かに洋服を着ている」「こっそり洋服を着ている」「乱暴に洋服を着ている」「丁寧に洋服を着ている」「慎重に洋服を着ている」などのような表現の場合、状態を表わす修飾語が来ると、「洋服着用中」という意味がその修飾語によって喚起されているため、動的状態の持続を表わすことになる。これらの修飾語は動的状態の様子を表わすために用いられている。静的状態の様子を表わすためには用いることができない。

「彼はいつも洋服を着ている」という表現の場合は、落ち着くか落ち着かないといった様子を表わすのではなく、長い時間にわたって静的状態が持続していることを表わしている。これらの時間を表わす修飾語は具体的な動作を表わしているわけではないため、その動的状態には関わりなく、その静的状態だけを修飾することになる。つまり、その静的状態が持続している時間の長短だけを表現し、その動的状態の表現ではないということである。

3.3. 瞬間動詞の場合

“着”はそのまま瞬間動詞と共起することができず、また、修飾語との共起による瞬間動詞の修飾的機能も保有していない。それに対し、<テイル>は、そのまま瞬間動詞も修飾し、更に修飾語と共起して瞬間動詞を修飾することもできる。

- (15) a*电灯一个一个熄灭着。(「電灯が次々に消えている」の意)
 b*电灯熄灭着。(「電灯が消えている」の意)
 c 电灯一个一个熄灭了。(電灯が次々に消えた)
- (16) 電灯は次々に消えている。
- (17) a*前辈们已经毕业着。(「先輩達はすでに卒業している」の意)
 b*前辈们毕业着。(「先輩達は卒業している」の意)
 c 前辈们已经毕业了。(先輩達はすでに卒業している)
- (18) 先輩達はすでに卒業している。

“着”は中国語では、“熄灭(消える)”“消灭(消滅する)”“消失(消失する)”“消逝(消え去る)”“结婚(結婚する)”“离婚(離婚する)”“入学(入学する)”“毕业

(卒業する)”“退学(退学する)”“通学(通学する)”“寄宿(寄宿する)”“住院(入院する)”“出院(退院する)”“退出(退出する)”“死亡(死亡する)”“死(死ぬ)”“逝世(逝去する)”“辞世(世を去る)”“倒(倒れる)”“掉(落ちる)”“塌(崩れる)”“丢(なくなる)”などは、動作性よりも状態性を有する動詞として、動作の結果を表わす語である。これらの動詞は、“着”と共起することができない。

(15)における“着”は、aとbのように、“熄灭(消える)”という動詞と共起することができない。“熄灭(消える)”は電灯が消えるという一つの結果を表わしているだけに止まり、その結果としての状態が持続しているということは想定できない。つまり、感覚によってはもうとらえられなくなり、ただその結果があるだけだという意味を表わしている。そのため、“着”とは共起することができない。“着”はその結果の描写には用いられないため、この種類の動詞を修飾することができない。

(17)における“毕业(卒業する)”は、中国語では離合詞の一つとして分類されており、全課程を学び終えているという結果を表わしている。その結果は全課程を学び終えた時点に来ていることを表わすだけに止まり、持続していることは考えられない。それで、“着”は、“毕业(卒業する)”のような離合詞を修飾することができない。離合詞は“毕业(卒業する)”の他、また、“结婚(結婚する)”“离婚(離婚する)”“入学(入学する)”“毕业(卒業する)”“退学(退学する)”“住院(入院する)”“出院(退院する)”などが挙げられる。

離合詞の文法的特徴は、“结婚(結婚する)”“住院(入院する)”のように、普通は結合して用いられているが、数量やテンス、アスペクトなどを表わす要素が加えられる場合は、“*结婚过一次(「一度結婚したことがある」の意)”“*住院了两天(「二日間入院していた」の意)”という構造ではなく、“结过一次婚(結婚する)”“住了两天院(二日間入院していた)”という構造を取ることになる。その理由を述べると、“结婚(結婚する)”“住院(入院する)”はそれぞれ“结+婚(結婚する)”“住+院(入院する)”からなっており、“结(結ぶ)”“住(住む・泊まる)”は動詞として使われており、そのままでは、“结婚(結婚する)”“住院(入院する)”という意味を表わすことができない。そこで、“婚(婚姻)”“院(病院)”という目的語を取って、“结婚(結婚する)”“住院(入院する)”のような形になると、それ全体で離合詞としてはじめて結婚する、入院するということを表わすことができるのである。ところが、数量やテンス、アスペクトなどを表わす要素が、動詞の部分に加えられないと、中国語では表現としては成立しない。離合詞はその構造により、動詞の部分にしか数量やテンス、アスペクトなどの要素が受け入れられ

ないからである。

“熄灭(消える)”“消灭(消滅する)”“消失(消失する)”と“毕业(卒業する)”“结婚(結婚する)”“住院(入院する)”などは、構成的には異なっているが、“着”と共起できず、“了”と共起できるという点では共通している。(15)(17)では、“了”は消えたり卒業したりするという状態の変化を表わしている。それに対し、“着”はその状態の変化を表わすことができないため、この種類の動詞とは共起することができないということになるのである。

「消える」「消滅する」「消失する」などの動詞は、瞬間動詞として電灯が消えたり物がなくなったりすることを表わすが、その状態が結果として持続することが考えられる。〈テイル〉はその状態が瞬間的に変化した結果(即ち変化後の状態)を表現することができる。さらに「次次に」「次第に」「段々と」「どンドン」となどの修飾語と共起して、その状態の持続するさまをも表わすことができる。たとえば、ネオンサインが夜空に点滅している場合、次から次へと消えては瞬く間に次から次へと点灯するという状況について、〈テイル〉は「次次に」と共起して表現することができる。

これらの瞬間動詞は、本来一種の静的状態を表わす品詞であるが、「次次に」「次第に」などの修飾語による修飾を受け入れると、動的状態の意味がもたらされてくるため、静的状態ではなく、動的状態の持続しているさまを表現できるようになる。この場合、〈テイル〉はその動的状態が持続していることを描写していると考えられる。この点については従来の研究ではあまり指摘されてこなかったが、〈テイル〉は瞬間動詞を修飾する時には、静的状態の持続を表わしているが、修飾語と共起する場合は、その修飾語の種類と意味によって動的状態の持続も表現することができるということである。修飾語はその意味によって、瞬間動詞に動的状態の意味をもたらしているので、〈テイル〉はその動的状態を表現することができるからである。この点では日本語の〈テイル〉は、中国語の“着”と根本的に異なっている。

日本語の「卒業する」「結婚する」「入院する」などの動詞は、活用的にはサ変動詞として、そして、意味的には瞬間動詞として用いられている。しかし、構成的には中国語の離合詞とは違っていると考えられる。たとえば、「彼は卒業している」という表現の場合は、全課程を終了しているという静的状態を結果として表わしている。そして、その静的状態が経過していることを強調する場合は、「彼はすでに卒業している」という表現も成立する。また、主語となる人物¹²⁾が複数存在する場合は、「次次に」「段々と」などの修飾語も受け入れることができる。たとえば、「先輩達は次次に卒業している」「学校時代の友人は段々と結婚している」などのように表現することができる。〈テイル〉

は、「次次に」「段々と」などの修飾語と共起する場合、「卒業する」「結婚する」という静的状態を表わしているだけで、その動的状態を表わしているのではない。この点では、「消える」「消滅する」「消失する」などの動詞の場合とは異なっている。

「消える」「消滅する」「消失する」などの動詞は、瞬間動詞として静的状態を表わすことになるが、「次次に」「次第に」などの修飾語によって動的状態の意味がもたらされるため、その動的状態を表わすことができるのである。それに対し、「卒業する」「結婚する」などの動詞は「次次に」「次第に」などの修飾語に修飾されても、主語となる人物が複数存在することだけは示しているが、動的状態を表わすことができない。なぜなら、「卒業する」「結婚する」などの動詞はただ単純な静的状態を表わすだけに止まり、特に主語となる人物が複数存在する場合は、動的状態ではなく、その静的状態を表わすことになるからである。

勿論、「卒業しようと思う」「早く結婚しようと考えている」などのように、主観的表現として動的状態を表わすことはできるが、主語となる人物が複数存在する場合は、客観的表現となり、〈テイル〉は「次次に」「段々と」などの修飾語と共起して、その静的状態が持続しているさまを強調することができるのである。そのために、「卒業する」「結婚する」などの動詞は「消える」「消滅する」「消失する」などの動詞とは違っているのである。

「結婚する」「離婚する」「入院する」「退院する」などの動詞はサ変動詞として、その活用語尾によって、テンスやアスペクト及びヴォイスなどの文法的要素を受け入れている。その静的状態については、〈テイル〉はそのままでも修飾できるし、また、様々な修飾語と共起することもできる。この点では中国語の“结婚(結婚する)”“离婚(離婚する)”“住院(入院する)”“出院(退院する)”などとは全く異なっている。

4. まとめ

“着”は、状態を表わす修飾語や時間を表わす修飾語などと共起し、様々な動的状態と静的状態を表現することができるという点では〈テイル〉と共通しているが、量性を表わす修飾語や頻度を表わす修飾語などと共起することができないという点ではそれと異なっている。

“着”は状態を表わす修飾語と共起して、両面性を有する動詞による動的状態や静的状態のいずれも修飾することができるが、時間や量性、頻度などを表わす修飾語とは共起することができないため、動作動詞による動的状態を修飾することができない。また、瞬間動詞を修飾できないため、修飾範囲が大いに制限されており、状態を描写する点においては強い修飾の文法的機能を有しているとは言えない。

<テイル>は、状態を表わす修飾語、時間を表わす修飾語や量性を表わす修飾語のいずれとも共起し、様々な動的状態と静的状態を修飾することができる。また、頻度を表わす修飾語と共起して瞬間動詞を修飾することもできる。さらには、その修飾語によって、瞬間動詞による動的状態をも修飾することができる。その修飾範囲は極めて広く、様々な動詞を修飾することから、強い修飾の文法的機能を有していると言える。

注

- 1)本研究では中国語の考察語は“ ”、日本語の考察語は< >で示す。例文に挙げられた考察語については下線を引く。以下同じ。
- 2)これまでの研究では、“修飾語+V+着”と<修飾語+V+テイル>という構造については触れているが、詳細に考察したものではない。
- 3)“着”についての論考は他にもあるが、ここでは本研究と直接関係した論考だけを取り上げることとする。
- 4)本研究と関係した論考は数多くあるが、紙幅の都合上一々挙げるができない。参考文献についても本研究と直接関係のある論考だけを挙げておく。
- 5)ここではごく簡単に触れているだけに止まり、詳しくは氏の論考を参照されたい。
- 6)<テイル>の「経験」の用法については、藤井正(1976)にも記述がある。詳しくは金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』p.112を参照されたい。
- 7)「動作動詞」とは、<テイル>について継続の意味を表わす金田一春彦(1950)における「継続動詞」に相当するものである。
- 8)「二面性を持つ動詞」については、後述のように<テイル>について動作の継続の意味をも動作・作用の結果の継続の意味をも表わす動詞として、「穿/着る・穿く」「戴/かぶる」「挂/掛ける」「套/かぶせる」などがある。工藤真由美(1982)、仁田義雄(1982)、戴耀晶(1997)などはいずれも触れている。
- 9)「瞬間動詞」については、金田一春彦(1950)、戴耀晶(1997)などでは述べられている。
- 10)工藤真由美(1982)では「着る、はく、かぶる、はおる、まとう、脱ぐ、きがえる」を主体の変化を表わしている動詞として挙げている。詳しくは、武蔵大学『人文学会雑誌』13巻4号pp.57-59を参照されたい。
- 11)仁田義雄(1982)では再帰動詞と呼ばれるものとして「着る、かぶる、履く、着替える、浴びる」などを挙げている。このグループに属する動詞を再帰動詞と呼んでいるという点では工藤(1982)と同じであ

る(同 p.39)。

- 12)吉川武時(1976)では<テイル>の「くりかえし」の用法について、同一主体による「くりかえし」と別々の主体による「くりかえし」に分けられている。詳しくは同 p.197を参照されたい。

参考文献

中国語

- 北京大学中文系 1955・1957 級语言班編(1982)《現代漢語虛詞例釋》商務印書館
- 戴耀晶(1997)《現代漢語時體系統研究》浙江教育出版社
- 房玉清(1992)《實用漢語語法》北京語言學院出版社
- 侯學超(1999)《現代漢語虛詞詞典》北京大學出版社
- 金立鑫(2004)「“着”“了”“過”時體意義的對立及其句法條件」《第七屆國際漢語教學討論會論文選》北京大學出版社
- 李敏(1998)「現代漢語主賓可互易句的考察」《語言教學與研究》第四期
- 劉一之(2001)《北京話中的“着”(zhe)字新探》北京大學出版社
- 陸儉明(1999)「“着(·zhe)”字補議」《中國語文》第五期
- 呂叔湘主編(1984)《現代漢語八百詞》商務印書館
- 石毓智(2006)「論漢語的進行體範疇」《漢語學習》第三期
- 王學群(2007)『中國語の“V着”に関する研究』白帝社
- 讚井唯允(2000)「“在等”“等着”“在等着”」『人文学報』311号
- 張黎(2012)《漢語意合語法研究——基於認知類型和語言邏輯的建構》白帝社

日本語

- 奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって—金田一の段階—」『宮城教育大学国語国文』8号
- 金田一春彦(1950・1976)「国語動詞の分類」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 工藤真由美(1982)「シテイル形式の意味記述」武蔵大学『人文学会雑誌』13巻4号
- 寺村秀夫(1982・2003)『日本語のシンタクスと意味』IIくろしお出版
- 中島孝幸(1999)「結果を表す構文について：テイルとラレテイル」『三重大学日本語学文学』10号
- 仁田義雄(1982)「動詞の意味と構文——テンス・アスペクトをめぐって——」『日本語学』1巻2号
- 藤井正(1976)「動詞+テイルの意味」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 矢澤真人(1985)「状態修飾成分と<シテイル>の意

味」『日本語学』4巻2号

吉川妙子(2012)『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋
書房

吉川武時(1976)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」
金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』
むぎ書房

謝辞：本研究の日本語の表現については、愛媛大学教
育学部元教授の菊川國夫先生にご指導を頂きました。
ここに記して感謝の意を表したいと思います。

(2018年9月25日受理)